

## ゴボウ部会

# 菊池水田ごぼう



作付け当初の収穫は手振りで、苦労されていたと聞いています。今では、専用の掘り取り機械により、収穫が楽になりました。当初と変わらないことは、手作業での草取りです。大変ですが、安全・安心の作物生産に心掛けています。

部会長 上野洋一



令和7年度 部会員77戸 栽培面積 87ha  
冬ゴボウとして12月～3月  
春ゴボウとして4月～6月に出荷  
出荷先は、関東・関西を中心に、北海道から九州円

## 水田栽培で

## 色白、柔らか、香り良し

むかしから稲作が盛んな菊池地域で、稲刈り後の水田を有効活用できないかと模索し、たどり着いた作物が「牛蒡(ゴボウ)」。昭和40年頃に水田でのゴボウ栽培が始まりました。水田の土壌は柔らかく、畑栽培と比べ根がまっすぐに伸び、見た目も美しく、ゴボウの肌も柔らかくなり、香りが良いゴボウとなりました。ゴボウは、病気にかかりやすい作物ですが、水田後に作付けすることで、土壌病害虫の発生を抑えることができます。また、良質な堆肥と稲わらの交換でゴボウに適した土づくりを行っています。

出荷前には、阿蘇外輪山から湧き出る伏流水でよく洗い、水に浸すことで灰汁(あく)が抜け、購入後すぐに調理できるので消費者からも喜ばれています。

販売担当の石原 誓志郎です



ゴボウ指導担当の宮川 翔です

2019年に地理的表示(GI)制度を取得し、部会員の意識も高まり品質も向上。市場での引合いも強いので、情報交換をしっかりとって売り込んでいきます。